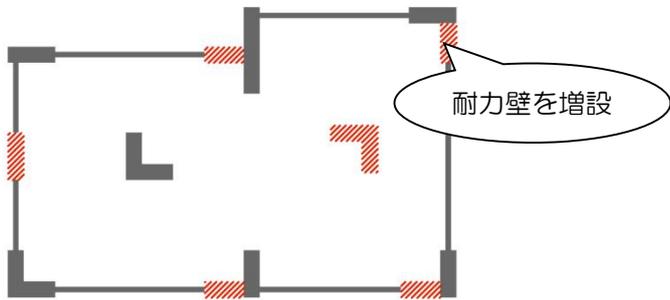
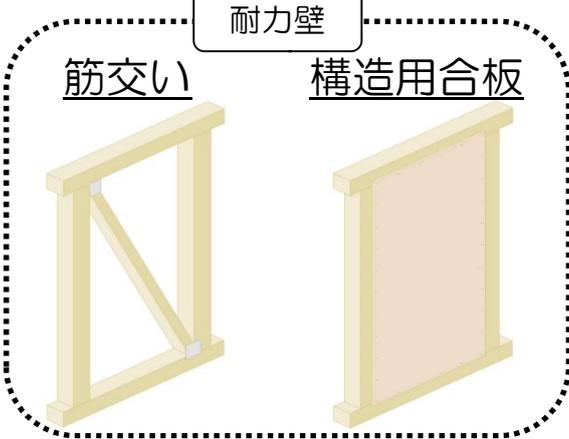
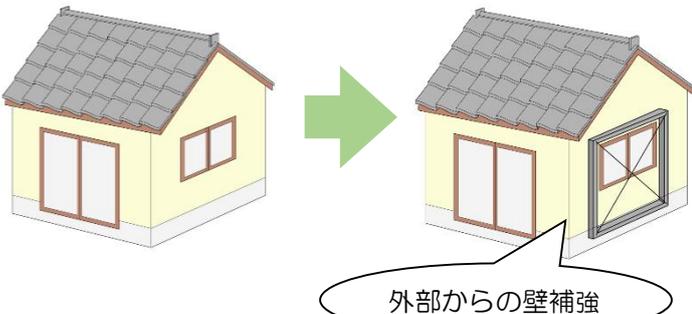
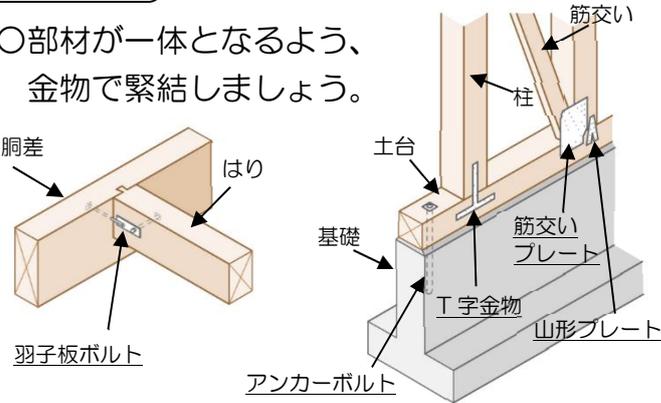
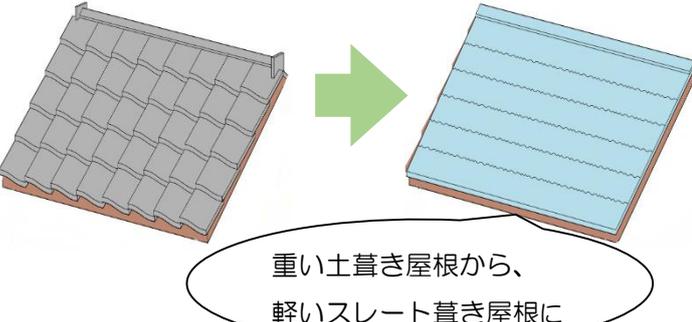
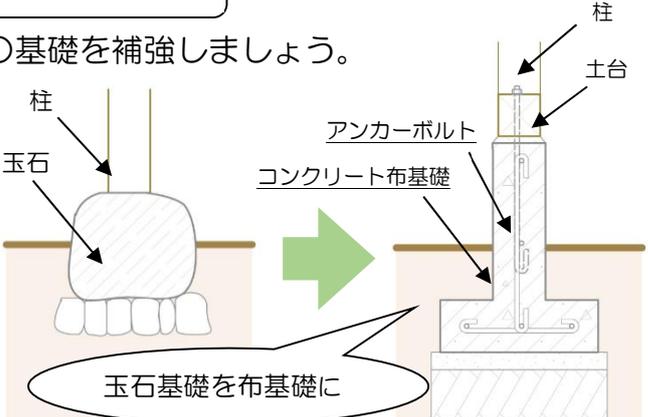


3 耐震改修における補強方法

【補強方法】

- その1：耐力を高くする
- その2：偏りをなくす
- その3：劣化部分を補修する

上部構造評価点を 1.0 以上にするため、具体的な補強方法を理解しましょう!!

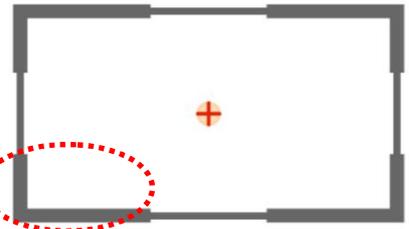
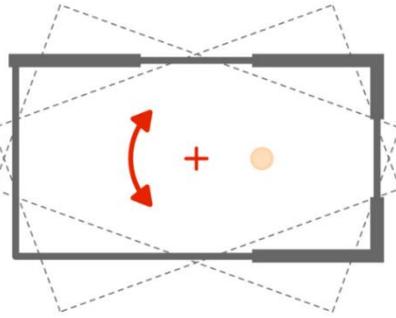
<p>その1</p>	<p>耐力を高くする</p>
<p>壁の増設</p> 	<p>耐力壁</p> 
<p>外付けフレーム</p> 	<p>接合部</p> <p>○部材が一体となるよう、金物で緊結しましょう。</p> 
<p>屋根の葺き替え</p> 	<p>地盤・基礎</p> <p>○基礎を補強しましょう。</p> 

その2

偏りをなくす

耐力壁の配置

○耐力壁をバランスよく設けましょう。



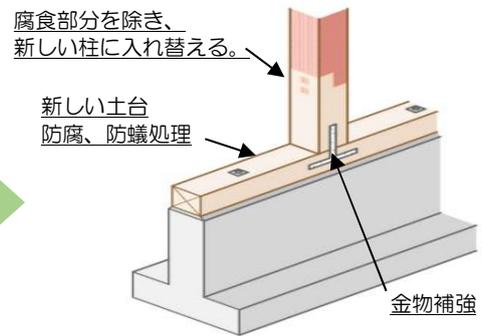
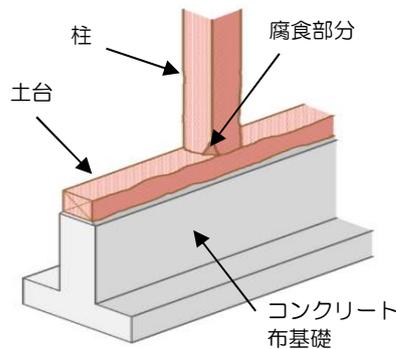
耐力壁をバランス良く配置

その3

劣化部分を補修する

劣化部材

○腐食部分は、新しいものに交換しましょう。



【工法の選択等】

耐震改修における補強方法については、通常の補強方法のほかに、天井や床などの仕上げを解体せずに壁の一部を補強する工法など、様々な工法があります。

工法を選択や詳細な補強設計によって、住み続けながら改修工事ができ、費用を抑えられる可能性があります。建物の状況による可否や、採用の条件等もあるため、必要に応じて、補強設計を行う技術者や、工事業者の方へご相談ください。

一般財団法人日本建築防災協会
ホームページ

愛知建築地震災害軽減システム
研究協議会ホームページ



【耐震シェルター】

耐震シェルターとは、住宅内の一部に木材や鉄骨で強固な箱型の空間を作り、安全を確保するものです。

※経済的な理由等で耐震改修できない場合は、耐震シェルターを設置することでも、生命を守る一定の効果があります。

